1991 年 8 月 9 日

漢字指導法研究会（国字研）第７回全国アカデミー
小学校低学年分科会報告書

ことばを豊かに確かにするために

紺 屋 冨 夫

もくじ

一　問題点　1
　1 指導事項　2 指導者　3 保護者　2
二　低学年児　指導上の留意点　3
　1 漢字指導の前に　2 ひらがなとカタカナ
　3 漢字指導に科学を　4 その他
三　指導の順序・時間・字数　4
四　指導計画と実践　4
　1 新出漢字の指導
　　A 読みの教材での新出漢字
　　B 書けるようにするための取り立て指導
　　1 音訓両方の読み
　　2 成りたち
　　3 意味
　　4 筆順と字形
　　5 使いかた (1)ことば集め (2)文作り　7
　　6 本時のまとめ
　2 重点指導　8
　　1 漢字入門
　　2 カタカナの指導（カタカナは、漢字学習の基本でもある。）　9
　　3 漢字を利用した関係語の指導　10
　　4 画・画数の指導
　3 日常指導（定着をはかるための）　11
五　今後の課題　12

◇　資料　◇

資料1、2	絵（単語）を文字に／「ツ」の板書例	13
資料17	「かん字カード」（東）	14
資料3	カタカナ 1 「せんの れんしゅう」	15
資料4	カタカナ 9「ソ　ツ　サ」	16
資料5	カタカナの書きじゅん	17
資料6	まちがいやすいカタカナ	18
資料7	カタカナで書くことば 1	19
資料10	なかまのことば 4	20
資料8	カタカナのよみ 8	21
資料9	カタカナで書きましょう	22
資料11	まとめことば・なかまことば 1	23
資料12	まとめことば・なかまことば 2	24
資料13	はんたいのことば	25
資料14	かん字の画・画数（1）	26
資料15	かん字の画・画数（2）	27
資料18	かん字とみじかい文のれんしゅう	28

漢字指導法研究会（国字研）第七回全国アカデミー　91.8.9 東京都教育会館エミール

「小学校 低学年」

―ことばを豊かに確かにするために―

東京都町田市立小山小学校　紺屋 冨夫

「……小学校から高等学校まで、十年以上の時間をかけ、しかも、以前にくらべて精選された漢字を、懸命に習得しようとしても、なおかつ、それができないのは、決して教育者の努力不足でも生徒の怠慢でもない。」（『漢字の未来』野村雅昭）

一、問題点
二、指導上の留意点
三、指導順と時間
四、指導計画
五、今後の課題

と　きいて　みた。とんびは、
「ひとの　ものなんか　しらん。
ピー、ピーヒョロロロー。」
と　いうと、空に　円く「の」
の　字を　かいて、森の　ほうへ　とんで　いった。

四書　一年(下)「いたちごっこ　ねずみごっこ」

「円」の初出、「エン」ではなく「まる(く)」
「丸」は、現行教育漢字六年、新要領二年。
「まるくの口の字……」では、おかしい。
「円く」を教えるには、「丸く」と対比させなければならない。

一、問題点

1 指導要領

① 六年間の国語科の総時間数に対する漢字数の比率は、第二次大戦中の一時期を除いて、現在がもっとも大きい。

。義務教育八八一字→小学校九九六字→一〇〇六字

・一年生　四六字→七六字→八〇字

・二年生　一〇五字→一四五字→一六〇字

・八〇字　一六〇字も大枠であって、上学年の漢字も指導できるとされた。

② 字種選定の観点が非教育的

③ 漢字提出順の非系統性

④ ひらがなやカタカナの指導時間も不足

2 指導者

① 国語科の内容と時間数
　その中での漢字指導

② 漢字指導の積極的な意義は何か。

③ 非計画性……意欲と定着を失わせるもの

・市販テストに合わせてしまう

・まちがった漢字は二千回書け

・指導なし　点検なし

④ 字体の許容度

・教科書体が標準であるとはいえず、逆ってるのに

・美しいと正しいとはイコールではない。

⑤ 漢字を作文・日記に強制すること

3 保護者

① 本字と仮名
　「漢字がわからなくてねえ。文章を書くのがいやです。」

② 漢字で苦労した経験

③ 読みや話し合いの授業は親には見えにくい。

※熱心な教師や親の「思いやり」は、多くの場合、にせの「無理やり」になってしまう。

『国語の授業』86.6より
田村利樹氏

表1　（図案）

学年	国語科時間数	漢字指導にあてる時間	一時間指導可能字数	学年指導数
1	週8	50	1〜2字	50
2	8	70	2	140
3	7	35	3	105
4	7	35	3	105
5	7	35	4	140
6	7	35	4	140

毎週の国語科各領域配分時間数

表現	話す・書く……作文	1時間
理解	聞く・読む	3時間
言語事項	漢字・文法	1時間
毛筆・硬筆書写		1時間
読書指導		1時間

二、低学年児指導上の留意点

1 漢字指導の前に
① 学級内の人間関係をよくする
② 話したり、読んだり、書いたりする活動を多く
③ ていねいさを大事に
④ 運筆をなめらかに
スプーン→はし→えんぴつ

2 ひらがなとカタカナ
① ひらがな指導は、漢字の伏戦
② カタカナは、漢字指導へのかけ橋

3 漢字指導に科学を
① かなと漢字のちがい
×字どり社　×日行木　×手れび
② まるごと暗記ではなく、分析して
強＝弓＋厶＋虫　明＝日＋月
③ 日常のことばと漢字を結びつける
熟語づくり　文づくり
④ 目で覚える、耳で覚える、口で覚える、手首で覚える、体全部で覚える。
⑤ 一字の指導にも、読む、書く、文法などの指導を意識的にとり入れる。
⑥ 学習のレディネスと記憶の忘却曲線
読書指導　反復練習　点検
⑦ 一度にたくさんのことは覚えられない
⑧ 大きな文字から小さな文字へ

4 その他
① 文字の形、線(画)の方向、起筆の位置を明示する。
ますの黒板　プリントのますに点を入れる。
② お手本は、プリントでは左側に書く
右利きの子が多いので
③ 速さよりも　ていねいに正しく
示範は教科書体で　評価は柔軟に
④ 指導のパターン(時間、順序、事後処理など)を決めておく。そうしないと、継続して指導できない。

三 指導の順序・時間・字数

① 漢字の指導の順序は、教科書に出てくる順。

② 一年生　一学期　ひらがな

九月～　かたかなに集中

十月下旬～漢字 74字/76字、「月・日」は日常指導で

二年生　四月初め　かたかなの復習

以後 140字/145字（汽・車・麦・鳴・里は読みだけ）

学年末　漢字の整理（関係語・画・画数）

③ 国語科の中での漢字指導時間

週当たり 2/8　一時間当たり 二字

毎時間漢字の指導をするのではなく、漢字指導の時間を特設した。

※公表されている実践例のほとんどが指導時間数に触れていないのは不思議である。

四 指導計画と実践

・新出漢字の指導

・重点指導

・日常指導（常時指導）

1 新出漢字の指導

A. 読みの教材での新出漢字

・内容を読みとるうえで必要な限りで「読み方と意味」を指導する。

例「お店」「えき」「ほそ道」「方法」「茶色」

・読み方のカードを黒板等にはっておく

・板書によって、正しい読み方を指導する

B. 書けるようにするための取り立て指導 2字/1時間

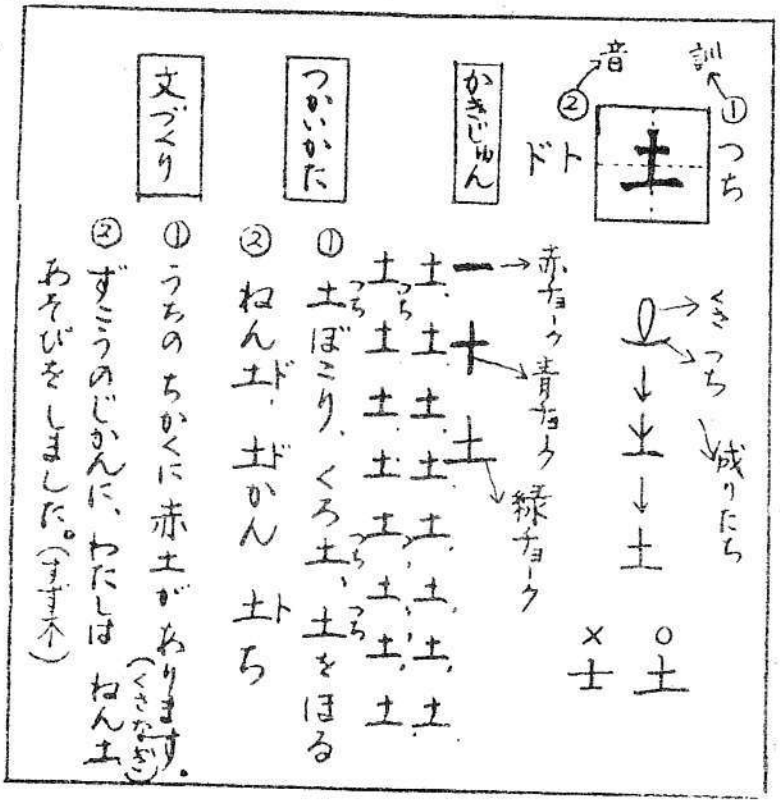
・音訓両方の読み

(1) 板書「土」の読み方を問い確認する。

(2) 他の読み方（音または訓）も教える。訓はひらがなで、その漢字の右側にかき、音はカタカナで漢字の左側にかくことを約束しておく。

動詞・形容詞など送りがなが必要な文字は送りがなの部分を（　）にかく

板書例



※音・訓を同時に指導する理由

(1) 漢字指導は、語イ指導でもある。ひとつの漢字から ことばの網を広げたい。

(2) 学年が進むにつれて、前学年までの漢字が不消化のまま新たに漢字を学習することが多い。そのうえ 読みかえ漢字と称する漢字も出てくる。そうすると ますます新出漢字を消化するのが困難になってくる。それをさけるためにも 低学年から 音訓両方を指導する必要がある。

(例) 日書の教科書では 青(セイ) 青年、雨(ウ) 雨天 犬(ケン)、牛(ギュウ) 古(コ)は、五年(ト)で 学習することになっている。

※音と訓の別を どうわからせるか

○漢字を学びはじめた子どもたちが音と訓とを区別するのは むずかしい。原則的なことを話してみても 理解させるのは困難である。

そこで

(1) 習うより「慣れろ」で、漢字一つ ひとつについて、異なる読み方があることをくりかえして指導する。使い方

(2) 「音・訓」のことばを明確に区別するより、異なる読み方、使い方を教えるという考え方の方がよい。

※子どもが理解できる程度の音訓を教える

2. 成りたち

漢字辞典を参考にして説明する。

ただし、すべての漢字の成りたちについて合理的に

説明することはできないし、また する必要もない。これは主に児童に興味深く学習させるための手段と考えた方がよい。

3. 意味

読み方と成りたちを指導するなかで原義は明らかになる。必要に応じて同音異字を補足説明する。 大…台 第。教…スーパー。

4 筆順と字形

(1) 筆順を示す色チョークで教師が一画ずつていねいに板書する。(例 一画め赤 二画め青 三画め緑 四画め茶 五画めからは くりかえし)

※はねる、とめる、はらうなどの区別

※ 立日 音 音 ※筆順を予想させるとおもしろい

(2) まちがいやすい筆順・字形については、板書して注意を喚起する。

(例 「土」と「士」 回の筆順)

(3) 板書した漢字を教師がなぞるのに合わせて子どもたちに空書き(宙書き)させる。この時「イチ、ニ、サン……」と筆順に合わせて声を出させる。

(4)

・はじめにできるだけ大きく三回位

・次に米粒に書くほどにちいさく二回位

・さらに眼を閉じさせて二回位(この時に筆順のちがっている子どもを発見することが多い。)

・机に指で書かせることもある。

ノートに一画ずつ書かせる(例 一、十、土)

次に、ノートに(送りがなもつけて)二分間ほどていねいにかかせる。(その間、巡回個別指導)

※特に画数の多い漢字や筆順をまちがえそうな漢字は、班単位で板書させてみる。

※また、時間に余裕があるときは、ノートに色鉛筆で一画ずつ色をかえて書かせるとよい。一画ずつ色をかえて書かせると画・画数を正しく書いているかの点検が瞬時にできる。子どもも一画ずつ正確に書くくせがつく。画の順を表す色は、あらかじめ決めておく。

5 使い方

(1) ことば集め

・はじめに、訓読みで使うことばを、主に熟語の形で口頭発表させる。板書する。

(例 土ぼこり くろ土、土いろ、土のなか。

※「土をほる」「土であそぶ」「あかい土」など文や句の形でしか使い方を言えない子どももいるが、実態によって許容してもよい。

・次に、音読みで使うことばを熟語で口頭発表させる。板書する。

(例 土かん ねん土 土て 土ろ)

※時時、発音は同じでも意味の異なる語(同音異字)を発表することがある。その時は該当する漢字を板書するなどして文字が違うことを指摘する。×土ろけい ×土リンク

※低学年の子どもの理解できないようなむずかしい熟語のときには、発表した子どもをほめるが板書はしない。定着しないからである。

(例 土民 土佐 土偶 土質)

(2) 文作り

・ことば集めのところで学んだことばを使って短文を作らせ、口頭発表させる。

初めに、訓読みのことばを使った短文、

次に 音読みのことばを使った短文

・ノートに短文例をかかせる。

・子どもが発表した短文を二〜三板書しておく。発表した子の名を記しておくと意欲をます。

※短文を口頭発表させるのは短時間で済むので指導にとり入れやすい。これは一年生初期のひらがな学習の時にも指導できる。もちろんかたかな学習の時も応用できる。

※二文からなる短文作りは低学年ではむずかしい。二年生でも半数ぐらいの子どもしかできなかった。

6 本時のまとめ

▷板書事項を読ませる

ノート例

①つち　土　一十土（3かく）
③ト
ド
①土ほこり　くろ土を
ほる。
②土ち、ねん土　土かん

①トラックがとおったあと
は、土ぼこりがすごかっ
たです。
②ずこうのじかんに、わた
しはねん土でぞうをつく
りました。
②テレビでよこづなが土
ひょういりをしていまし
た。

２ 重点指導

・漢字入門
・カタカナ
・系列語・反対語
・画・画数

1 漢字入門

。漢字学習への興味づけ
。漢字の基本的性格（意味を表す。一字で一つ数
　の指導　　　音節を表す。）

教科書では一年生の一学期後半～九月から指導するようになっている。

※私は、この指導を教科書（日書）を使って簡単にあつかってしまった。ていねいに指導する場合には、『漢字の授業』（日本書籍発行。P110～117　一年生の指導の章　服部徳樹氏）が参考になる。

右の実践では、次の順でていねいに指導している。
①絵ことば（絵→音節→かな表記→漢字）
②絵から生まれた漢字（象形文字）
③同じ音の単語と漢字（例日と火）

2 カタカナは、漢字学習の基本でもある。

カタカナ（一年生の二学期初めに集中して指導。二年生の初めに復習する。）

○漢字指導の前にカタカナを集中指導する理由

1. 漢字学習への橋渡しとして有効

カタカナは漢字の部分品（部首としても用いられており画の大部分がカタカナ46字に使われている。また、筆順の原則を身につけることもできる。）

2. ひらがなとは別の表音文字として（さらに）漢字とも区別できる。（二学期以降漢字といっしょにおもいつきのように教えるとカタカナそのものが身につかない。高学年になっても「又」は、どう書くのかわからない子がいるのが実態だ。）

3. その他時期的問題に適応し全体的

○カタカナの指導順と内容

1. カタカナの使われ方　新聞、広告紙を参考にする。（三時間）三種に分類する（外国の地名・人名、外来語、擬音・擬態語、ひらがなとは異なる。）

2. 基本的な画（ノ、フ、レを含む）（一時間）　資料③

3. 読み方、書き方（一四時間）　資料④

4. 長音（拗長音の表記、誤りやすい字形（一時間）（ここまで一年生）

5. 筆順（第一画めの方向）でのまとめ（一時間）資料⑤

6. まちがえやすい字形（一時間）資料⑥

7. カタカナの使われ方（一時間）資料⑦

8. テスト（一時間）

（以上、二年生）

○カタカナの日常指導と家庭学習

1. カタカナのっている新聞、雑誌、広告紙等を切りぬき教室内にはりだせる。

2. ①外国の地名・人名②擬音・擬態語③外来語等の項目ごとに班で分担して調べさせ発表させる。

3. 電報遊びをさせる

4. 作文等でカタカナを使うところを直させる

5. カタカナでの文字しりとり

6. カタカナプリント学習　資料⑧⑨

3 漢字を利用した関係語の指導（一年生～二年生）

漢字の意味を考えて、分類整理させる

※周辺語 そして、今までの上位・下位語指導後

○上位語・下位語（一年生…一時間）資料⑩

（二年生…二時間）資料⑪⑫

○反対語（二年生 一時間）資⑬

4 画・画数の指導（二年生 二時間）

画・画数は、カタカナの新出のたびに指導するが、二年生の後半に再度 まとめて指導する

○十種の画の確認 資⑭⑮

○漢字を画数で分類させる

3 日常指導（定着をはかるための）

・眼に触れる機会、読み書きの機会を多く

① 既習漢字カードの掲示（なれてきたら子どもに書かせる。）

既習漢字カード（八つ切画用紙）

土 つち ド ト

トラックが土ぼこりをあげて走っていった。

土ぼこり、くろ土（つち）、土いろ

ねん土（ド）、土かん（ド）、土ち（ト）

大しまくんは、ねん土でゴリラをつくった。

画ごとに色をかえる

・新出漢字の指導で子どもが発表した熟語や文をかく。

・朝自習や授業の始めなどに読ませる

② 漢字カード（家庭学習）資料⑰

・新出漢字の指導後、一両日のうちに指導する。

・一日に一～二枚（一～二字）を家庭学習にする。

すでに学習した漢字であり、またノートに読み方、筆順、画数、使い方の例が書かれているので十五分くらいで書ける。必ず点検する。

・用紙を大量に印刷しておき（最近では、ほぼ同じ形式のノートが市販されている）、児童が自由に持ち帰れるようにしておく。

・子どもにNo順に保管させる。子どもが作った字典にもなる。

※市販の漢字学習ノートでもよい。

③ ②のカード学習からおよそ一週間後、読み方、短文作りをプリントに書いて復習。（四～五字八ぐ）

資⑱

④ 学期末ないし学年末に文の形での読み書きの総復習。

資料⑲⑳

⑤ 視写　教科書や投げこみ教材を視写させる。

⑥ 読書指導の中で

漢字への興味づけや分析的な指導とともに、子どもたちが漢字に日常的に触れる機会を多くすることが必要である。読書は漢字学習の面からも重要である。

私は、子どもたちが図書室の本などを一冊読むごとに読書カード（一口感想を書けるようにした）を背面黒板にはりつけた。

⑦ 日記、作文の中で使用させる。

日記、作文の中では、書こうと思えば書ける漢字もかなで書いてあるのが普通である。

漢字で書くことを初めから強制すると文章そのものが書けなくなることもある。書いたあと

必要に応じて漢字に書き直させればよい。
自分の文章を漢字で書き直させてもよいし、
級友の文章を直させてもよい。

⑧ 板書では、できるだけ既習漢字を使う。

⑨ 日常指導漢字
国語科で取り立てて指導せず、他教科や生活の中で指導することも可能だと考えられる漢字

一年生……月　日
二年生……会（学きゅう会　朝会　おたのしみ会）
工（工場　カタカナの工）
番（当番　じゅん番）
曜（曜日

⑩ 児童全員に『漢字の本』（2年生）（偕成社版）を買わせて、折にふれ、クイズを出したり、漢字を見つける競争をしたりしたこともある。

五　今後の課題

① 指導すべき漢字の量を減らすこと。
1968 指導要領では　一年生 46字　二年生 105字　だった。
現在は　そのおよそ一・五倍の指導字数である

② 厳選された小学校六〇〇字程度の漢字を指導系統順にならべること

※ 右の②については、私達漢字指導法研究会や国字研で試案を作成した。

③ 文法や作文、読みとりの指導法などと同様に漢字についても早急に、全学年分の指導法を確立する必要がある。

の中で絵をつかって何をかいたのかな。

C　……ことば、みじかいことば。

T　そう、「やま」とか「いぬ」とか……こういうみじかいことばを何といったっけね。

C　たんご。

T　そうだ、よくおぼえていたね。ひらがなのべんきょうのとき「たんごあつめ」をやったね。あのときのたんごとおなじだね。あき子さんは、お話の中の単語を絵でかいたんだね。じゃ、この絵をここにはるからね。少し単語のべんきょうをしてみようね。これもまえにならったことなんだけど……。

はいこの単語は、いくつのおとの単語かな。

C　二つのおと。

T　そう、二つのおとだね。それじゃ絵の下におとのしるしを書くよ

●●（いきもの）

「イ」というおとと「ヌ」というおとの単語だね。それじゃ、どんななかまを表す単語かな。

資料　P113「漢字の授業」

資料　P114「漢字の授業」

C　いきもの、どうぶつ。

T　そう、いきもののなかまを表す単語だね。じゃそれも書いておこう。（以下略）

板書で整理

①●●（いきもの）②●●●（ばしょ）

③●●●（のりもの）④●●●●（ばしょ）

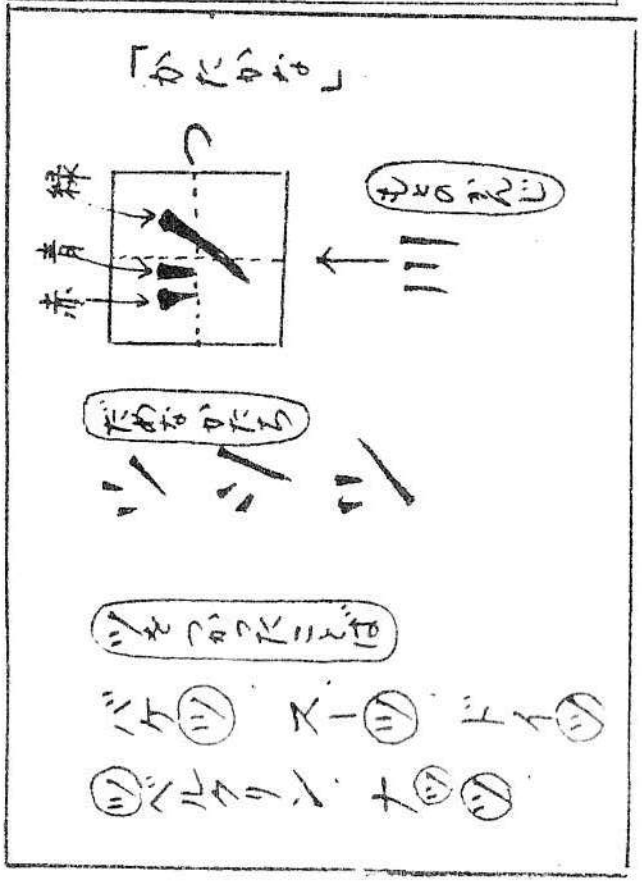
⑤●●（ばしょ）⑥●（もの・しぜんのもの）

⑦●●（しぜん）⑧●●（もの・しぜんのもの）

T　さて、こんどはね。●のところにひらがなを書いてみよう。一人ずつ黒板に書いてもらうよ。……じゃね、だれか、これを漢字で書ける人がいるかな。いたらまえに出て書いてください。

この段階ではもちろん画や書き順は問題にしない。川、山、犬などは、クラスの中のいく人かは書ける子どももあるだろう。「みずうみ」などは、この段階では、漢字では書けないということでさしつかえない。

資料◇「ツ」の板書例



かん字カード

②かんじ：東

④オンヨミ：トウ

③くんよみ：ひがし

よりがな

④画数：8

⑤かきじゅん

1	一	9
2	一	10
3	百	11
4	百	12
5	百	13
6	車	14
7	東	15
8	東	16

⑦つかいかた

くん 東をむく	オン 東きょう
くん 東の穴	オン 東ざいなん
くん 東日本	オン 東地方
くん 東の方がく	オン

⑧みじかい文

オン くん

犬が東の方がくをむいた。

ぼくはJR東日本のコマーシャルをみた。

かんじカード NO.

①ひょうえ

資料 17

かたかな！

・せんの れんしゅう（おわったひとは あかえんぴつでもかいてみましょう。）

リ	(れ) レ	ム	フ	(ふ) フ	し	コ	ノ	ヘ	(の) ノ
リ	レ	ム	フ	フ	し	コ	ノ	ヘ	ノ
リ	レ	ム	フ	フ	し	コ	ノ	ヘ	ノ

なまえ

かたかな ソ（左から ちくじ）

ソ ツ サ（はてなちゃたひとは、ちゃくごにして やってみましょう。）

なまえ

(16)

ソ	ソ	ツ	ツ	ツ	サ	サ	サ	サ	サ
ソ		ツ			サ				
ソ		ツ			サ				
	ソ		ツ			サ			
ソ		ツ		ツ	サ			サ	
	ソ		ツ			サ			
ソ		ツ			サ				

カタカナの書きじゅん

二年　なまえ

・ナは、どこから書きはじめますか。→一（よこせん）から書きはじめます。

・イは、どこから書きはじめますか。→ノ（ななめせん）から書きはじめます。

・ウは、どこから書きはじめますか。→丶（てん）から書きはじめます。

・トは、どこから書きはじめますか。→一（たてせん）から書きはじめます。

左のカタカナ五十音の字を見て、書きじゅんでぶんるいしてみましょう。

①「一」から書きはじめる字（三三あります）

②「ノ」から書きはじめる字（十あります）

③「丶」から書きはじめる字（八あります）

④「亅」から書きはじめる字（四あります）

かたかな

（へ）だけはなかまはずれです

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト

ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	
マ	ミ	ム	メ	モ	
ヤ	(イ)	ユ	(エ)	ヨ	
ラ	リ	ル	レ	ロ	
ワ	(イ)	(ウ)	(エ)	ヲ	
ン					

まちがいやすいカタカナ

なまえ

⑥	⑤			④		③		②		①			
ち	よ	こ	ゆ	め	な	ヨ	あ	く	わ	つ	そ	し	ん
チ	ヨ	コ	ユ	メ	ナ	マ	ア	ク	ワ	ツ	ソ	シ	ン

カタカナで書くことば 1　　(67)　　二年　　なまえ

1 五の□の中のカタカナを(1)〜(3)に分るいして書きましょう。
(どれも八つずつあります。)

(1) 音や なき声

ブンブン		

(2) 外国の人の名まえや 土地の名まえ

ハワイ		

(3) 外国から はいってきた ものや ことばら

サッカー		

ホームラン、チュンチュン、ピアノ、パンダ、サンタクロース、ニューヨーク、ニャーオ、コケコッコー、フランス、ゴーンゴーン、ノート、ペンギン、アンデルセン、ミルク、アメリカ、チリンチリン、ウォーウォー、ガマガヤ、チューリップ、ヘリコプター、シンデレラ、ピーポー、ドンドンドン、イギリス、アメリカ、ベートーベン、アフリカ

2 右の(1)(2)(3)にあてはまることばを□の中のほかにも さがして、ノートに書きましょう。

なかまの ことば 4.

なまえ

上の かんじを、下の「ことばのグループのひょう」に ぶんるい しましょう。

①（犬）

木、犬、虫、花

どうぶつ	
犬	虫

しょくぶつ	
木	花

②

学校、赤、文、字、青、白、本

べんきょうに かんけいが あるもの			

③

口、足、下、目、上、中、手、耳

いち（ばしょ）		

④

三、七、土、二、日、金、八、九、四、六、火、水、月、木

⑤

森、人、男、空、山、川、林、女、王、子、石、

にんげんに かんけいの ある ことば				

しぜん					

⑥

千円、百円、出る、十円、入る、立つ、見る、五円

うごきに かんけいの ある ことば			

・かたかなの表 8

タイヤ	ハイヤー	ダイヤモンド	
ユニホーム	チューイングガム		
チューリップ	ニュース	ニーカバー	
ヨット	チョーク	クレヨン	
ライオン	ランドセル	ライター	
リレー	リボン	リュックサック	
ビール	ボール	カンガルー	
レモン	レコード	レインコート	
ロケット	ロボット	ロッカー	

NO. 7

かたかなでかきましょう。

なまえ

あ		ぶ		ぽ		も		に		じ		な		ぴ		ぽ		ぼ	
ら		ら		う		す		ゅ		や		っ		く		す		う	
び		じ		ら		く		う		ん		ぷ		に		と		る	
あ		る		ん		わ		よ		ぷ		ぎ		っ					
				ど				う				っ		く		び		ぱ	
ぎ		お				い		く		じ		く		ー		ん		と	
り		う		ぱ		ん				や				ぴ		ぽ		ろ	
し		す		な		ど		ろ		ん		ぺ		ん		ん		う	
や		と		ま				ん		け		ん		せ				る	
		ら				れ		ど		ん		ち		っ		ぱ		か	
わ		り		め		ば		ん						と		ん		あ	
し		あ		き		の				ぱ		ぽ							
ん				し		ん		ろ		り		ん				ぱ		ぷ	
と				こ				う				ど				ん		う	
ん								ま								つ		る	

(22)

まとめことば・なかまことば 1

二年　なまえ

上のことばを、下の『ことばのグループのひょう』にぶんるいしましょう。
ひょうの下には「なかまのことば」、上には「まとめのことば」をかくのです。

(れい)

上、下、目、手
毛、左、手

からだ		
毛	手	目

いち		
下	上	左

・目、手、毛などは、「からだ」ということばでまとめることができます。
・左、上、下などは、「いち」ということばでまとめることができます。

朝、風、昼、雨、
晴、夜、雲、夕、

一日のじかんにかんけいのあることば			

天気にかんけいのあることば			

犬、虫、茶、牛、草、
麦、馬、米、竹、鳥

黒、白、南、東、
北、西、黄、赤、

方がく			

足、耳、夏、顔、春、
冬、秋、首、頭、

一、寺、千、店、家、
五十、戸、十、百、門、

たてもの				

算数、理科、自てん車、船、電車、音楽、自どう車、図工、国語、い行き

まとめことば・なかまことば 2

二年

なまえ

(24)

1 あいているところに、左の□から えらんだ ことばを 入れて、「ことばのグループのひょう」に しましょう。

(1)

						日曜日

(2)

		川		山

(3)

		兄		父

(4)

			国語	社会

月曜日、海、母、理科
弟、谷、野原、金曜日
空、妹、算数、音楽
水曜日、火曜日、土曜日
自ぜん、教科、図工
家ぞく、一しゅう間、木曜日

2 あいているところに、ことばを 入れて「ことばのグループのひょう」に しましょう。なるべく かん字を つかうこと。

(1)

一日			
	夕		朝

(2)

千			一

(3)

冬			春

(4)

船			自てん車

(5)

時間				
	時	日		年

(6)

		青		茶

はんたいの ことば

二年　なまえ

1 つぎの ことばの はんたいの ことばを 書きましょう。（かん字で 書くこと）

①夏（　　）　②天（　　）
③子（　　）　④南（　　）
⑤出口（　　）　⑥上（　　）

2 つぎの かん字の中から はんたいの いみの 字を さがして 一組にし、二字の かん字ことばを 作りなさい。

大　多　右　少　左
夕　小　朝　後　前

①（大　小）　②（　　）　③（　　）
④（　　）　⑤（　　）

3 つぎの ことばと はんたいの いみの ことばを 書きましょう。（かん字で 書くこと）

①女子（　　）　②父親（　　）
③大船（　　）　④南きょく（　　）
⑤地上（　　）

4 つぎの ことばの はんたいの ことばを かきましょう。（かん字で かくこと）

①すわる（立つ）　②くらい（　　）
③ひくい（　　）　④せまい（　　）
⑤みじかい（　　）　⑥おす（　　）
⑦くもる（　　）　⑧こわす（　　）
⑨帰る（　　）　⑩売る（　　）
⑪古い（　　）　⑫近い（　　）

5 「兄」と「弟」を つかって、みじかい文を つくりましょう。

6 「走(る)」と「歩く」を つかって、みじかい文を つくりましょう。

かん字の画・画数 (1)

(ぜん)

二年

なまえ

かん字は、つぎの十のてんやせんから組み立てられています。いちどで書く（えんぴつを紙からはなさないで、つづけて書く）てんやせんを画といいます。

(ア)（□）の中に、左の□からそれぞれの画をつかったかん字をえらんで書き入れましょう。

一 よこせん 一　二 三　（五）（4画）

二 たてせん 丨　十 中　（川）（3かく）

三 ななめせん ノ　人 会　（合）（6かく）

四 かくかぎ 冂 凵 日 山　（田）（5かく）

五 ななめかぎ フ 刀 ム 宮 子 夕 力 広　（台）（5かく）

六 てかぎ 亅 レ 丶 手 長 紙　（町）（7かく）

七 つりばり し 心 色　（元）（4かく）

八 くのじ く 女 母 糸　（組）（11かく）

九 あひる て 九　（気）（6かく）

十 てん 丶 心 下　（犬）（4かく）

元 川 文 田 字 台 工 家 千 合 白 食 正
止 気 出 刀 子 毛 兄 池 組 毎 妹 風 分
犬 米 黒 百 引 火 回 水 町 花 店 光

(イ) あなたの書いた字は、いくつの画を組み合わせてできていますか。かぞえてみましょう。そのかずを画数といいます。（　）の中のかん字の下に、それぞれ画数を書き入れましょう。

かん字の画（カク）・画数（カクスウ）(2)

二年　なまえ

つぎの かん字を 画数で ぶんるいしましょう。（つかいおわったら かん字には 一字ずつ ×を つけて けしていきましょう。）

馬	北	社	強	回	用	半
夏	米	歩	黄	長	首	来
鳥	何	母	食	家	後	東
当	知	帰	南	雨	野	弱
走	風	黒	会	色	市	貝

（どの画数の字も 五つずつ あります。）

五画の字	六画の字	七画の字	八画の字	九画の字	十画の字	十一画の字

資料㊱

7/11

かん字と みじかい文の れんしゅう 資料18

◎まちがえた字や ことばを もう一どれんしゅうしよう。

名前

1

西 西 西 西

くん読み にし

オン読み サイ セイ

①くん わたしは、西にしずむ たいようを 見た。

②オン わたしは、かん西地方に行ったことが ある。

2

記 記 記 記

くん読み しる(す)

オン読み キ

①くん わたしは、自分の名前を ノートに 記した。

②オン ぼくは、おとなに なったら、なわとびの せかい記ろくを 出したい。